

岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2012

と き 平成24年10月30日(火)～11月1日(木)
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

史跡 岡山城跡 本丸下の段 岡山市北区丸の内

史跡岡山城跡では、保存整備事業の一環として本丸下の段(テニスコート跡地)の発掘調査を行っています。今回は、平成21年(2009年)に建物の南側部分が検出された中門(長屋門)の北側部分の構造を明らかにすることを主な目的としました。

調査の成果として、まず中門は北側建物(多間)の基礎となる石組み列が検出でき、防御用の施設として堅固なつくりであったことが確認できました。また、これと合わせて中門の西側に設置された枅、下層で中門をさかのぼる時期の瓦敷きの排水溝などの遺構が検出されています。枅は内側を漆喰で塗り固め、上部には豊島石製の石枅が置かれており、瓦敷きの排水溝は本丸石垣から伸び、排水のために設けられたものと考えられます。両者とも江戸時代に描かれた絵図には記載がなく、貴重な情報を得ることができました。遺物は、調査区を発掘中に陶磁器、土器、瓦、動物の骨、貝などが出土しています。

史跡 千足古墳 岡山市北区新庄下

史跡千足古墳は、造山古墳群に所在する全長約75mの前方後円墳です。5世紀代に作られ、埋葬施設には吉備最古の横穴式石室が構築されています。この石室内には直弧文の刻まれた仕切石が置かれており、九州地方と吉備の結びつきを示す資料として知られています。2009年に、この仕切石に彫刻された直弧文の剥落が発見されました。このため2010年度より保存整備事業を立ち上げ、その一環として墳丘の発掘調査を進めています。

2011年度は、仕切石の取り上げに先立ち、石室のまわりを発掘調査しました。調査の結果、石室の入口につながる通路(羨道部)を確認できました。羨道部に積まれた石は、石室内の石と同様香川産の安山岩という石材を利用し、表面にはベンガラと思われる赤色顔料が塗られていました。羨道部の形状は、5世紀前半ごろ九州北部で作られた古墳と類似しており、千足古墳が九州の古墳文化の影響を強くうけていることをあらためて確認できました。

彦崎貝塚 岡山市南区彦崎

彦崎貝塚は、旧児島湾岸貝塚群のひとつです。平成20年3月28日に国史跡の指定を受けました。平成23年度の調査目的は、指定地北側と西側の状況を確認することでした。結果、縄文晩期前半～中世の遺物包含層を確認しましたが明確な貝層と遺構面は検出できませんでした。T46では谷地形であることが確認できました。

T47は、6世紀後半の砂洲が確認できました。4層は、古墳時代後期の製塩土器と礫を多く含む粗砂層です。5層は、製塩土器を含み礫を殆ど含まない粗砂層です。この層からは突帯文が検出されていますが河川等の作用を受けている可能性が高いです。また、この層が南から北にむかって傾斜して行く状況が土層断面で観察されるので、汀線に近い位置にあったことが推定されます。また、左古谷遺跡B地点とは指呼の距離にあり、両遺跡出土須恵器の検討結果からほぼ同時期と推定されるので一連の遺構群(居住域と作業場)と理解できます。縄文時代以降の土地利用の様相が判明しました。

塩納遺跡(A地点) 岡山市東区瀬戸町塩納

塩納遺跡A地点は、大森山と竜王山に挟まれた谷口の、ゆるやかな斜面上に位置し、美作岡山道路建設に伴い平成22年度から23年度まで発掘調査を行いました。22年度の調査では、弥生時代中期と鎌倉時代の集落が確認されています。平成23年度の調査では、昨年に引き続いて弥生時代中期と鎌倉時代の遺構・遺物が見つかり、それぞれの集落の様子が明らかになりました。

弥生時代中期の集落は、A地点西側斜面のほぼ全体に広がっています。特に斜面の中腹はその中心と考えられ、戦後の区画整理で削り取られかなり浅くなっていますが、複数の竪穴住居跡や掘立柱建物、溝やたくさんの土坑が見つかっています。またこの集落の西には、狭い谷を挟んで別の集落が営まれていたこともわかりました。

鎌倉時代の集落は、A地点東側の大森山山裾から西側の竜王山山裾にかけて広がっており、複数の掘立柱建物や溝、土坑などが見つかりました。掘立柱建物の中には柱が沈み込まないように底に石を敷いた柱穴を持つものもあり、比較的大きな建物も建っていたようです。建て直したと思われるものもあり、鎌倉時代の集落は、ある程度の期間存続していたものと思われます。

塩納遺跡(B地点) 岡山市東区瀬戸町塩納

塩納遺跡は大森山南裾の、緩斜面や小尾根上に営まれた遺跡であり、B地点は遺跡の中央付近に位置しています。平成23年度は22年度調査の東側、北より延びる東と西の2本の尾根に挟まれた谷部分の調査を行いました。その結果、西側には22年度調査で見つかった江戸時代の墓地の続きが、東の尾根上には弥生時代の遺構群が、そして谷筋には複数の川があったことがわかりました。

弥生時代の遺構の多くは柱を立てた穴と考えられ、東の尾根の裾部には、複数の竪穴住居や掘立柱建物があり人が生活していたことが窺えます。またその西側の谷筋を流れる川の中からは、その人たちが使っていたと思われる土器や石器がたくさん見つかりました。これらの土器には弥生時代中期(2000年ほど前)のものが特に多く、現在山林や耕地になっているB地点周辺は、弥生時代中期頃には集落が営まれ、たくさんの人が生活していたと考えられます。

金蔵山古墳 岡山市中区沢田・円山

操山丘陵のほぼ中央に位置する前方後円墳です。四世紀末から五世紀初頭に造られた古墳で、墳長165mを測り岡山県では四番目の規模を誇ります。昭和28年には倉敷考古館を中心に発掘調査が実施され、多量の鉄製品や多彩な埴輪群が出土しました。この金蔵山古墳を史跡に指定して保護するため、岡山市では範囲確認等の調査を計画しています。平成23年度は墳丘の測量調査に着手しました。

測量はまだ途中ですが、三段築成の墳丘の様子や非常に厚く葺石が葺かれていることなどがわかってきています。また、測量に際し埴輪片を多数採集しています。

湊茶臼山古墳(第4次) 岡山市中区湊

湊茶臼山古墳は操山丘陵南部の山頂に立地する大型の前方後円墳です。これまでの調査で五世紀初頭ごろの古墳であること、墳長約125m、後円部径約70m、前方部前幅55mの前方後円墳で、前方部の北側に「島状遺構」を伴うこと、前方部前端的な墳丘外に葺石を敷いた施設や造り出し状の構造を伴うことなどがわかりました。

第4次調査は調査計画の最終年度にあたり、前方部頂および前方部周辺を中心に調査を行いました。周辺部の調査が中心であったため出土物はごく少ないのですが、前方部前端側や北東側の墳丘外で周提状の高まりを検出しており、山上の古墳でありながら一部に周溝あるいはその区画を再現しようとしている可能性があります。

もっと知りたい!という方は・・・

”埋蔵文化財発掘調査報告会” には是非お越し下さい。速報展で展示した遺跡・遺物のことを発掘調査の担当者が詳しく説明します

●とき 11月10日(土) 13:30～ ●ところ 岡山市埋蔵文化財センター (岡山市中区網浜834-1) Tel (086) 270-5066 *11月9日(金)までに左記に要予約のこと